

【法学部】

○ディプロマ・ポリシー

- ・幅広い教養と複数の外国語の習得に基礎づけられた、法学的小よび政治学的観点から主体的に問題を発見し、解決する能力

- ・法学的小よび政治学的知識を主体的に展開する能力、とりわけ、自己の主張を論理的に構成し、表現する能力

なお、後に述べるように本学部では、学生が自らの関心と将来計画に基づく体系的な履修を実現できるように、「司法コース」、「行政コース」、「企業・国際コース」の3つのコースを設け、希望進路に応じた履修のガイドラインを提供するが、このディプロマ・ポリシーに掲げた各能力は、上記のような職のいずれにおいても必要不可欠な、いわば共通項として位置付けられる。

○カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに示した能力を身に付けた人物を育成するため、本学部では、以下のようなカリキュラム・ポリシーを定める。

- (1) 幅広い教養と複数の外国語を身に付けるために、基幹教育科目を履修させる。
- (2) 法学・政治学に関する基礎的、基本的な知識の着実な習得を重視し、専門の講義科目を開講する。その際、学生が自らの関心と将来計画に基づいて科目の選択ができるよう3つのコース（司法コース、行政コース、企業・国際コース）とそれぞれに推奨される履修モデルを示す。
- (3) 専門演習及び専門特別演習から4単位を必修とし、それ以上の履修を奨励する。これらの演習では特に学生の自主的な研究と討論能力の養成を重視する。原則として15名以下の少人数教育を行う。
- (4) 法学・政治学を外国語によって調査・研究する能力を育成するために、英・独・仏・中国語の外国語演習を開講する。
- (5) 社会の諸問題をみずから発見し、それらを多角的に検討する能力を養うため、総合大学である利点を生かし、文系他学部の専門科目の履修も一定範囲で認める。

なお、上記の授業科目における学修成果は、原則として、論述形式の定期試験、レポート及び平常点などにより評価し、予めシラバスで明示した評価方法により厳格に判定する。中でも、法学部専門教育科目のうち講義科目では、法学・政治学に関する基本的知識を確実に習得していることを確認したうえで、自己の主張を論理的に構成し、表現する能力が身についているかの観点から評価する。少人数で行う演習系科目では、報告や質疑応答などを通じ、主体的に問題を発見し、解決に導く過程について他者と論理的に討論する能力が身についているか確認する。

○アドミッション・ポリシー

今後ますます複雑化する日本社会・国際社会においては、その健全な発展と安定に大いに寄与する人材を育成することが求められている。そこで、大阪公立大学法学部は、約70年にわたって法学政治学の研究教育機関として重要な役割を果たしてきた大阪市立大学法学部の伝統を継承しつつ、社会科学的な素養と法的思考力(リーガル・マインド)を身に付け、人権感覚豊かで有能な民主主義社会の担い手となりうる人材を養成するという教育の理念・目的のもと、幅広い学問体系を擁する総合大学として優れた人材を育成し、民主主義社会において中核を担う人材を社会の多方面に供給する。

以上を前提として、大阪公立大学法学部は、次のような学生を求める。

- (1) 新しい問題に果敢に取り組む知的好奇心を持つ人
- (2) 自分を相対化するための想像力と豊かな人間性を持つ人
- (3) 相手の意見を的確に理解し、自分の意見を論理的に構成して、正確に表現・文章化する能力を持つ人
- (4) 法学・政治学の専門的知識を身につけるために必要な一般教養を有する人